

# EU政策文書「コミュニケーション持続可能な製品を標準に」概説

Communication on making sustainable products the norm

2022年3月発表

加藤 瑞紀

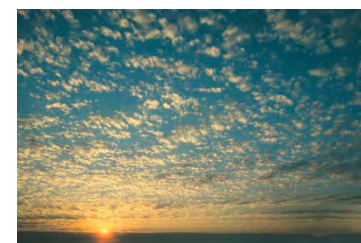
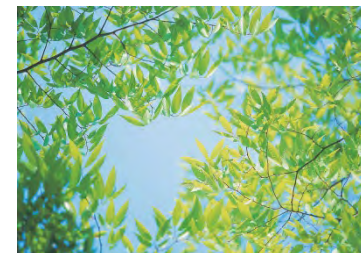
IGES 持続可能な消費と生産領域 研究員

辰野 美和

IGES 持続可能な消費と生産領域 プログラムコーディネーター

粟生木千佳

IGES 持続可能な消費と生産領域 主任研究員



# コミュニケーション持続可能な製品を標準に

## Communication on making sustainable products the norm

- 2022年3月30日に発表されたEUによる持続可能な製品に関する新たな政策文書“Communication on making sustainable products the norm”の要点をまとめました。
  - [https://ec.europa.eu/environment/publications/communication-making-sustainable-products-norm\\_en](https://ec.europa.eu/environment/publications/communication-making-sustainable-products-norm_en)

※なお、本概要の公表にあたり、細心の注意を払って作成いたしましたが、速報性を優先したことから、英語の解釈などに誤りや誤解がある可能性があります。予めご承知おきください。

- 本資料は暫定版（仮抄訳）とし、必要に応じて、適宜、追記・改善・修正・再掲載いたします。
  - 初公表：2022年4月13日 v1.1
  - 一部追記：2023年11月28日 v1.2

# 主なポイント

本コミュニケーションとともに、以下の政策・規則案を公表。

- 「持続可能な製品のためのエコデザイン規則案」
- 「エコデザイン・エネルギーラベル作業計画2022-2024」
- 「持続可能な循環型テキスタイル戦略」「建築資材規則の改定案」
- 「グリーン移行における消費者のエンパワーメントに関する指令案」

本コミュニケーションは、これら政策パッケージの内容の要点と関連する取組を整理したものである。

## 主な取組とそのポイント

- 規則とすることにより、EU域内共通のルール適用
- **エコデザイン要件**の設定：2030年までにEU内製品の大部分が**循環側面**を反映した（耐久性、エネルギー・資源効率性、修理・リサイクル可能性、リサイクル素材使用）設計
  - 対象製品も拡大
- 製品の環境情報等を記録する「**デジタル製品パスポート**」を導入
- 「**新EUエネルギーラベル**」に、**修理可能性スコア等の循環性側面追加**
- **消費者への製品の耐久性・修理、環境パフォーマンス等**情報提供、計画的陳腐化対策
- 「持続可能な循環型テキスタイル戦略」
- 売れ残り製品廃棄抑制・禁止：**年間廃棄製品量、廃棄理由、再利用・再製造・リサイクル・エネルギー回収された廃棄製品量の情報開示の義務づけ**予定、製品によっては全面禁止
- **循環型ビジネス推進支援ガイダンス作成**

# 参考図

## Making sustainable products the norm in a more resilient Single Market

### 「建築資材規則の改定案」

Complementary sectoral rules on construction and other product categories (e.g. batteries, chemicals, packaging)

及び製品別ルールの補完  
(電池、化学物質、容器包装等)

### 「エコデザイン・エネルギーラベル作業計画2022-2024」

#### Ecodesign Working Plan 2022-2024

- Higher energy efficiency and circularity for energy-related products
- New rules for consumer electronics (smartphones, tablets, solar panels)

### 持続可能な循環型テキスタイル戦略

#### Strategy for Sustainable and Circular Textiles

- Binding eco-design requirements, incl. durability, reparability, and recycled fiber content
- Stop microplastics pollution
- Tackle fast fashion, textile waste, and the destruction of unsold products
- Accurate green claims
- Sustainable global value chains

### 「持続可能な製品のためのエコデザイン規則案」

#### Ecodesign for Sustainable Products Regulation

- Performance and information requirements for greener products
- Tackle the destruction of unsold goods
- Waste prevention and reduction
- Mandatory criteria for green public procurement
- Digital Product Passport and new labelling rules
- Stronger market surveillance

### 消費者のエンパワメントに関する指令案

#### New rules to empower consumers for the green transition

- Protection against greenwashing and the deliberate planning or design of products with limited lifespans
- Information on product durability and reparability

### 循環ビジネスモデル支援

#### Support for circular business models

- European circular business hub
- Guidance to businesses

### 国際社会への取組



#### Global action

- Global sustainable consumption and production forum
- Corporate sustainability due diligence

引用 : <https://eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/TXT/HTML/?uri=COM:2022:140:FIN>

# 目次

1. はじめに
2. 持続可能な製品の規範化
3. 持続可能な製品への分野横断的アプローチ
4. エコデザインメソッド：計画、交渉、共創
5. 循環経済ビジネスモデル
6. 消費者のエンパワーメントと保護
7. 世界レベルでの持続可能かつ循環型の製品・ビジネスモデルアジェンダの主導
8. 結論

# 1. はじめに

- 多くの危機に直面する中、今一度経済モデルを考え直し、エネルギーシステムを再設計する必要性に迫られている。
- 市民の福祉を向上させ、私たちが日々使用する製品の素材や必要とされる資源をよりよく使用し、製品自体を改善することで、持続可能な成長をもたらす必要がある。
- EUレベルでの調和されたアプローチを取ることで、**競争力の強化、新たな事業機会や雇用の創出**、そして欧州グリーンディールのビジョンに沿った**市場のグリーン化の推進**が狙い。さらに、**消費者のコスト削減、EU経済のレジリエント化**を進めることで、**2050年までのカーボンニュートラル、生物多様性の損失の回避、ゼロ汚染目標の達成を目指す**。
- 今回の「**持続可能な製品のためのエコデザイン規則案 (ESPR)**」は、エコデザインの枠組みを**より幅広い製品に適用**できるようにするもの。
  - エネルギー効率だけでなく、**循環性の実現や、製品の環境・気候フットプリントの全体的削減と循環性に向けた最低基準の設定**も想定。
  - 新たな枠組みが発効されるまでは既存のエコデザイン指令を基軸とする想定。
  - 新たに発表された「**エコデザイン・エネルギーラベル作業計画2022-2024**」（2022年3月30日発表）と共に、新たなエネルギー関連製品を対象とし、既に規制されている製品の対象をさらに更新・拡大する予定。
- セクター別の個別対策も進め、「**持続可能な循環型テキスタイル戦略**」、「**建築資材規制の改定**」も同日に発表した。
- 消費者対策も強化すべく、「**グリーン移行における消費者のエンパワーメントに関する指令案**」も発表し、EU消費者法のグリーン化に向けた改正を導入する予定。

## 2. 持続可能な製品の規範化 エコデザイン要件の設定

### 背景

- ESPR（持続可能な製品のエコデザイン規則）では特定製品グループのエコデザイン要件を設定し、循環性、エネルギーパフォーマンス、環境側面の改善を図る狙い
- 製品の環境情報に関する要件も設定：「デジタル製品パスポート」導入
  - バリューチェーン上の全企業による必要な環境情報へのアクセスが可能に
  - コスト削減、原材料ニーズと戦略的依存度の低減が期待
  - 環境負荷のトレーサビリティを可能にする狙い

### 方針と施策

- 製品製造に関するエコデザイン要件：
  - ✓ 製品の耐久性、信頼性、再利用可能性、アップグレード性、修理可能性、メンテナンスとリファービッシュの容易性
  - ✓ 製品・素材の循環性を阻害する物質含有に関する制限
  - ✓ 製品のエネルギー使用量またはエネルギー効率
  - ✓ 製品の資源使用または資源効率性
  - ✓ 製品に含まれる最低限の再生資源含有量
  - ✓ 製品・素材の分解、再製造・リサイクルの容易性
  - ✓ 製品ライフサイクルにおける環境影響（カーボンフットプリントを含む）
  - ✓ 包装廃棄物を含む廃棄物の防止と削減
- ESPRで規制される全製品を対象に「デジタル製品パスポート」を導入
  - 製品のタグ付け、識別化、循環性・持続可能性に関するデータへのリンク付けが可能となる予定

## 2. 持続可能な製品の規範化 その他

### 方針と施策

- ラベル要件の設定
  - 「新EUエネルギーラベル」には修理可能性スコア等の循環性側面も含まれる
  - EUエコラベルによる製品別の新しい調達基準の設定・改定にも取り組む予定
  - 購入時の重要な情報の提供を義務化することにより、類似製品の購入時の環境パフォーマンスの比較を容易にする狙い
- 売れ残り消費財の廃棄の抑制と停止
  - 売れ残り製品を廃棄する大企業は、廃棄物の階層に沿って、年間廃棄製品量、廃棄理由、再利用・再製造・リサイクル・エネルギー回収された廃棄製品量の情報開示の義務づけを予定
  - 製品カテゴリーによっては売れ残り製品の廃棄を全面禁止する可能性も規定される予定
- グリーン調達
  - EUのグリーン公共調達基準は任意であり限定的な影響に留まるため、特定製品の公共調達に義務的基準を設定することで公共支出を通じた持続可能な製品への需要創出を狙う



### 3. 持続可能な製品への分野横断的アプローチ

#### 背景

- 既存または将来の法規制・政策に沿うようESPRを作成
- ESPRの取組みには定期的に影響評価が行われる
- 持続可能な循環型繊維に関するEU戦略など他の政策との相互作用も図る狙い
  - これらセクターでの循環型ビジネスモデルの推進、セクター別廃棄物の削減を目指す
- EU法案で持続可能性に関する義務的な要点が設定されていない業界、また個別法案がある業界にもESPRは補完的な役割を果たす
- 特に廃棄家電は新たな製品製造に再利用できる部品や素材の大半が未回収である課題



#### 方針と施策

##### 繊維・フットウェア：

- ESPR採択・発効後の影響評価の後、繊維製品のエコデザイン性能要件、情報要件、デジタル製品パスポートを定める二次法案が策定される予定
- 繊維ラベル規制により繊維製品のラベルに関する改善も予定

##### 建築資材、電池、容器包装、化学物質：

- 建築資材の持続可能性要件：「建築資材規則の改定案」で設定 → エネルギー関連の建築資材はエコデザイン指令で規制、持続可能性側面はESPRで扱う
- 電池：主に電池規則案で扱うが、追加的な特定持続可能性要件が必要となる場合はESPRで補完
- 包装：包装・包装廃棄物指令で扱うが、製品カテゴリーによって包装の特徴が異なるため、製品別のESPR規則を策定する際は包装面も重視して検討
- 化学物質：ESPRの権限範囲は明確に定義 → REACH21やRoHS22の補完

##### 家電製品：

- スマートフォン、タブレット端末、ノートパソコンを対象に、新たなエコデザイン措置が採択される予定
- RoHS指令の見直しも開始
- 家庭で保管されている古い小型電子機器の引き取り・返却を促すインセンティブづくりも計画中

## 4. エコデザインメソッド： 計画、交渉、共創

### 背景

- EUのエコデザイン・エネルギーラベル政策はエネルギー効率化に大きく貢献した実績
- 既に約30ものエネルギー関連製品グループを対象にルールを設定
- エコデザイン指令では多年度作業計画の採択を通じた目標設定が実施され、ESPRでも同様に実施予定



### 方針と施策

- ESPR枠組への移行に向けて「エコデザイン・エネルギーラベル作業計画2022-2024」を採択
  - ESPR枠組発効までのエコデザイン指令に基づく取組みの促進、エネルギー関連製品からの物質消費・エネルギー使用削減促進
  - 現行の法的枠組みのもとで循環的側面適用増
- 新しい製品も対象とすべく、2022年末までにESPR第1版作業計画で選定される製品カテゴリーに関するパブリックコンサルテーションを実施予定（予備評価では、繊維、家具、マットレス、タイヤ、洗剤、塗料、潤滑油、鉄鋼、アルミニウムなどの製品カテゴリーが候補）
- 主要なステークホルダーとの共創を重視
  - 「エコデザインフォーラム」を情報共有・意見交換の場として継続活用予定
- 新しいESPR規則は、健全な（評価）方法論的アプローチに裏打ちされている必要
  - 適切な場合に製品環境フットプリント法を基礎とする
  - 優先的に循環側面（耐久性、修理可能性、再生資源など）の新しい評価手法を開発予定

# 5. 循環経済ビジネスモデル

## 背景

- 持続可能な製品の規範化に加え、**循環型ビジネスへの投資**が必要
- 循環型ビジネスでは、企業は利益獲得を製品の販売量に依存するのではなく、**耐久性や修理可能性の向上**により、**製品・素材の価値を持続**させることで、収益獲得を目指す
  - 生産者にとって製品の持続可能性、循環性を高める**インセンティブ**が生じる市場が創出される
- 循環型ビジネスへの移行には、**デジタル製品パスポート**など**デジタル技術の活用**が不可欠



## 方針と施策

- **循環経済への移行、雇用創出**などを支援
- 各分野のステークホルダーが協力・情報交換できる「**欧州循環型ビジネスハブ**」を設立し、**循環型ビジネスの導入**を支援
  - 循環経済に関する既存のEUネットワークをもとに立ち上げ予定
- 加盟国・企業などに向けた**循環型ビジネスの推進を支援するためのガイダンス**を発行予定
  - 投資の他、**資源ストックフローの最適化**、各分野のステークホルダーとの**パートナシップ形成**を含む
- 「**欧州技能アジェンダ**」を通じた循環型ビジネス発展に必要な**教育訓練**に投資
  - 「**Pact for Skills**」の下、大規模なパートナシップを立ち上げている

## 6. 消費者のエンパワーメントと保護

### 背景

- 消費者が持続可能性・循環性の高い製品を購入するためには、**正確な製品情報**が消費者に提供される必要
- 消費者が十分な情報をもとに**購入の意思決定**を行う必要



### 方針と施策

- ESPRは**循環経済に向けた消費**を支援
- **「EU消費者関連法の改正」**を通じ、**製品の耐久性、修理（修理可能性スコア含む）**などの情報を消費者に提供
- 製品の**環境パフォーマンス等の表示に関する具体的な規則**を作成
- グリーン、エコフレンドリーなど**曖昧な表現の他、製品の計画的陳腐化などを禁止**
- **消費財の修理を奨励するためのイニシアチブ（「修理する権利」）**（2022年秋の採択予定）を立ち上げ

# 7. 世界レベルでの持続可能かつ循環型の製品・ビジネスモデルアジェンダの主導

## 背景

- EUは世界的に持続可能性を提唱してきた実績
- 環境配慮型の持続可能な製品の市場拡大により、**グローバルバリューチェーンの持続可能性強化、パートナー諸国の前向きな変化**に貢献、**複数のSDGs達成**に役立つ
- EUの行動だけでは、世界が必要とする環境の持続可能性と循環型社会への移行を実現できない
- **国際協力**を強化し、EU野心を世界に広めることにより、**パートナーとともに行動**する必要



## 方針と施策

- 特に**低・中所得国**での新規則遵守促進のために、**世界・地域・二国間レベルで非EU諸国との関与強化**
  - **二国間**：非EU諸国と協力、能力開発、対話強化、技術協力、ビジネス支援ネットワークや循環経済投資ファイナンスへのアクセス、潜在的技術障壁の特定と共同イニシアティブ促進のための優良事例の交換
  - **世界レベル**：多国間フォーラム、G7、G20、GACERE等で、循環経済課題を追求
- **世界規模の持続可能な消費と生産フォーラムの創設**提唱
  - UNEA決議内「資源効率の達成貢献の観点から、民間部門と協力し、ライフサイクル評価を考慮した製品設計強化、製品寿命延長、修理、再使用、循環経済との関連におけるリサイクルを容易にする措置を講じる」
- 持続可能な生産と消費を促進する**国連・その他関連世界的/多国間イニシアティブ**支援
  - **国際資源パネル**作業結果を支持・普及
  - **世界貿易機関 (WTO)**において、グローバルバリューチェーンにおける循環型社会の構築に関するベストプラクティスを共有・議論

## 7. 世界レベルでの持続可能かつ循環型の製品・ビジネスモデルアジェンダの主導

### 方針と施策

- 企業の**持続可能性デュー・ディリジェンス**に関する最近の欧州委員会の提案は、世界レベルでの持続可能なビジネスモデルの推進に寄与
  - この提案は、企業がグローバル・バリューチェーンにおいて**環境に及ぼす悪影響への対処、説明を義務付け**
    - 産業部門を超えた企業の持続可能性の移行を促進
- 提案ルールに基づき、大企業は、パリ協定に沿って地球温暖化1.5°C抑制に自社の事業戦略が適合することを保証する計画を持つ必要

## 8. 結論

- 一連の持続可能な製品イニシアティブを通じ、**2030年までにEU消費者が入手できる製品の大部分を耐久性があり、エネルギー・資源効率が高く、修理・リサイクル可能で、リサイクル素材を優先した設計**にする狙い。これらを通じ：
  - 世界中の企業が**社会・環境にコスト転嫁する企業に負けない競争力**をつける。
  - 消費者がより**持続可能な選択をするために必要な情報**にアクセスでき、グリーン移行に有害な行為から保護され、**製品機能をできるだけ長く維持**できるようになる。
  - 企業は製品とビジネスモデルの**環境持続可能性と循環性の確保**に**必要なデータ**にアクセスできるようになる。
  - **計画的陳腐化**との戦いや製品の**再使用・修理方法に関する情報**の提供などを含め、循環経済政策の強化を図る。
- ESPRは製品規制への多面的アプローチを可能にし、**真のゲームチェンジャー**として影響力を増していくだろう。
- セクター横断的な包括的枠組みを設定し、作業計画の採択などの重要ステップを踏むことで、**全般的な方向性と目標を事前に明確化**→詳細な製品規則が定められる前に、企業は**必要な組織的・制度的準備を行う時間を得る**。
- 本パッケージの提案は、欧州グリーンディール、EUの環境・気候関連目標（特に**2050年までの気候中立達成目標**）、**2030年までの物質循環使用率倍増の目標**、EUの野心的なエネルギー効率目標の達成に大きく貢献。
- 「2030年デジタルの10年」、「新産業戦略」、「欧州社会権の柱」行動計画、「新欧州バウハウス」の目標にも貢献
- EUを**2030年持続可能な開発目標の達成**に大きく近づける可能性をもたらす重要な役割を果たす。

IGES Factsheet :

EU政策文書「コミュニケーション持続可能な製品を標準に」 (2022年3月) 概説

問い合わせ先 :

IGES持続可能な消費と生産領域 主任研究員 粟生木千佳 E-mail : [aoki@iges.or.jp](mailto:aoki@iges.or.jp)

Published in April 2022

Copyright © 2022 Institute for Global Environmental Strategies. All rights reserved.

この出版物の内容は執筆者の見解であり、IGESの見解を述べたものではありません。

無断転載を禁ず。